

第3回藤沢市総合計画審議会

と き 2009年(平成21年)10月3日(土)
午前10時～正午
ところ 藤沢市役所新館7階第7会議室

次 第

1 開会

2 議事録確認

3 議事

(1) 市議会議員全員協議会及び地域経営戦略100人委員会の報告

(2) 新総合計画の構造と基本構想策定のプロセスについて

－ 討議 －

(3) 「“らしさ”と“課題”抽出の領域設定と分類」及び
「基本構想の“切り口”と“軸”の設定」について

－ 討議 －

(4) (仮)起草部会の設置について

4 その他

書記(事務局)
藤沢市経営企画部経営企画課
電 話 (0466) 50-3502
ファクス (0466) 50-8402
e-mail kikaku@city.fujisawa.kanagawa.jp

藤沢市議会議員全員協議会（10月1日）における意見

10月1日に開催された藤沢市議会議員全員協議会において発言された意見等の要旨について事務局にて取りまとめたものです。議事を記録したものではありません。

件名：新総合計画策定の取組について（報告）

<意見>

- 新しい手法であり、市民の戸惑いは事実である。実験的手法であることを市民が理解しているか疑問である。100人委員会の構成バランス、総合計画審議会の構成バランスが偏っているのが心配である。市民1000人討論の開催時期が遅いと思う。普段地域や市政に関わっていない、声なき声をいかに収集するのが大切であると思う。
- 100人委員会の年齢構成、30年先を見据えるには、若い世代、中学生～大学生の声を活かすこと、若いときの若い意見というものも必要ではないかと思うが、いかがか。
 - 次世代への想いは非常に高いと思う。学生の意見を取り入れることは検討したい。
 - ✓ 学校でのインタビューという形などでも、収集をすべきである。新たなアイデアも持っていると思う。是非取り入れていただきたい。
 - 取り入れさせていただく。

<質疑>

（地域経営戦略100人委員会）

- 第2回100人委員会では、各地区の代表の出席者が1～3名程度ではないかと思う。地区に宿題を出すようなこと、一部の人間で決めているのではないという方向付けをすることが必要ではないか。
 - 地域経営会議自らがアンケートを取っていただくような手法を検討している。
- 時間がない中で進めているように感じるが、内容が濃ければよいと思う。委員へのデータの提供は早急に行う必要があると思うがいかがか。
 - 100人委員会は、データでは測れない定性的な生活実感に基づく意見を収集していた。今後は、データ等を踏まえた、裏づけのある整理を行っていく。
- 基本的に応援をする立場として意見を申し上げたい。第1回100人委員会の際には、進行が幼稚であるとか、前段が長かったであるとかといった意見があり、私もそう感じた。第1回で途中退席した方へのフォローはどうなっているか。第2回100人委員会では、もう参加しないという委員もいた。こういった方へのフォローはどのようなになっているのか。
 - 100人委員会に対して、地区推薦委員・公募委員からいただいた意見については真摯に対応していきたい。アイス・ブレイクについては、打ち溶けるためのひとつの手法と考えているが、ご意見を参考とし見直す。かわら版、議事録、資

料については、委員全員への提供を行っている。

- 若い世代の参加が少ないと思うが、この辺りの意見収集について、どのように考えているか。
 - 重み付けなどのアンケートの中で意見を吸い上げて行きたい。
- わいわい・がやがや・わくわく会議のメンバーは良いことを言っていたが、参事級職員の中で、発言しにくいのではないか。
 - 委員会の中で、自由に意見を出し合うことについて説明し理解を求めている。
- 次回から地域経営会議の委員が追加となるが、新しい委員への情報提供についてどのように考えているのか。
 - 地域経営会議の中でも意識や情報の共有を行うこととしている。
- ワールド・カフェで書かれた抽象的・具体的な様々な意見は、どのように総合計画審議会に報告しているのか。
 - 写真及びデータを分野別に仕分けしたものを提供している。
- 100人委員会の委員について、欠員補充や追加はあるのか。所得階層別の把握をしているのか。
 - 地域経営会議の委員については、地域経営会議から2名程度追加を行う予定である。所得階層別に係るデータは把握していない。できるだけ、全員参加でのゴールを目指している。フォローアップをしっかりと行きたい。
 - 仕組みや会議運営自体が新しい実験的・思想的な取り組みである。途中経過での評価、判断は難しい。市民参加の計画づくりを目指しているため、結果としてのご判断、温かい目での支援をお願いしたい。
- 総合計画は、誰のための計画か。地方自治法に沿ってということは、憲法以下法令に従ってということである。かわら版に市は新総合計画の案をもっていないと書いてあるがこれは違うと思う。道路など市が主体となる都市計画を持っているが、これらの点についてはどう考えているか。また、コンサルは入れていないというが、実質的に大学がコンサルになっているのではないか。
 - コンサルがつくった総合計画の「たたき台」の素案をもっていないという意味である。市民と行政、大学と一緒に考えていく取り組みである。

(市民1000人討論)

- 市民1000人討論の手法について、どのようになっているのか。
 - 1,000人に対して無作為抽出のアンケートを行いつつ、参加者に対する情報提供を行っていく。
- 弱者の声をいかに吸い上げていくのか。
 - 市民1000人討論での無作為抽出や地域でのアンケート、パブリック・コメントで対応していきたい。

第2回地域経営戦略100人委員会

「30年後の藤沢らしさカフェ」意見集

「風景」「自慢」「残したいもの」「実現したいこと」「環境」「変化」「未来からのお願い」「継続」「その他（自由テーマ）」をもとにワールド・カフェにより声を集めました。

各グループで記入したまとめのシートの内容をできるだけそのままのジャンル・そのままの形で掲載しています。

(30年後の) 風景

30年後の藤沢にはどんな風景が広がっていますか？

- ・ 海岸がなくなる
- ・ 護岸がコンクリート化
- ・ 長後の商店街の再生
- ・ 御所見の様々な田畑を再利用できるシステムづくり
- ・ 老人の方々のエネルギーを内ではなく外へ向ける仕組み
- ・ 宇宙に飛び出す人が多くなり、高い空から眺めている。
- ・ まちがビルラッシュになっている。
- ・ 子どもが多くなり、まちじゅうが明るくなる。
- ・ 藤沢駅周辺が商業地でなくなる。
- ・ パソコン時代で外出をしない人が増える。
- ・ 電気自動車が走っている。電灯はすべてLEDになる。
- ・ 湘南台地区が藤沢の中心になる。
- ・ エネルギーのベストミックスにより、災害に強いまちができる。
- ・ 電線が地下に入り、地上に緑が増える。
- ・ 各家庭の屋根に太陽光発電がつく。
- ・ 辻堂の海岸線に津波防止の山ができる。

自 慢

30年後の子どもたちに、いまのあなたは、どんなことを自慢したいですか？

- ・ 自然環境（緑あふれる藤沢）
- ・ 近所づきあい（住む人の温かさ）
- ・ 平和がますます感じられる藤沢
- ・ 人づくり（よいまち・道の駅・モノレール）
- ・ 祭り
- ・ 伝統文化・郷土文化
- ・ 湘南の海
- ・ 北部の緑
- ・ 活力ある静かなまち
- ・ 海・野・山の組み合わせ

- ・ 自然がいっぱいある環境
- ・ 史跡が多い・歴史のまち
- ・ 安全・安心都市
- ・ 外来者に対する寛容さ
- ・ やさしい人が多い。
- ・ 地産地消
- ・ 交通の便がよい。

残したい

今の藤沢らしさで、30年後にも残しておきたいものは何ですか？

- ・ 子どもたちの考えを入れてつくった公園
- ・ 江の島の環境（含む植物園）灯台，岩屋，洞穴
- ・ 農地・緑地
- ・ 青い空・青い海
- ・ 文化財（市指定）人形山車
- ・ 辻堂・鵜沼の地引網
- ・ 海浜公園
- ・ オオタカ
- ・ いつでも入れる保育園・幼稚園
- ・ 水族館の大きいもの
- ・ 江の島ナンバー
- ・ 富士山に見える場所
- ・ 自然とみどり（大きな木）
- ・ 季節を感じる空気
- ・ 文化財
- ・ 大庭城跡
- ・ お祭り
- ・ 歴史
- ・ 人と人とのつながり
- ・ 人情
- ・ 鵜沼婦人と鵜沼紳士（礼儀・言葉づかい）
- ・ 芸術・文化的な雰囲気
- ・ 川
- ・ 谷戸（ホタル）
- ・ 農業
- ・ 漁業
- ・ 中小企業
- ・ 街並み
- ・ 小出川の彼岸花
- ・ 鵜沼皇太神宮

- ・ 古民家
- ・ 庭園（邸園）
- ・ 茶室
- ・ 能舞台
- ・ 海・里の自然
- ・ 人の心のふれあい
- ・ 鵜沼の道路の狭さからくる近所の助け合い
- ・ 海の幸
- ・ 田畑
- ・ 市街地と自然，田畑のバランスのよいまちの環境
- ・ 地域活動
- ・ 住民の力，協力関係
- ・ 地域の祭り
- ・ 森・海・里山
- ・ 農業
- ・ きれいな空気
- ・ 農産物
- ・ 畜産物
- ・ 藤沢の名称
- ・ 湘南藤沢の名称
- ・ 歴史・文化・伝統
- ・ 地域の文化
- ・ 地域の祭り
- ・ クリーンな産業
- ・ 海・山・川・島の景観と遊ぶ場所
- ・ 農産物・海産物
- ・ 史跡・古い歴史の建物
- ・ 江ノ電
- ・ 里山の保存（ホタルの里）
- ・ 片瀬の下町的人情・おっとりした気質
- ・ 農業・漁業・産業のバランスのとれたまち
- ・ 歴史・観光資源（ハス池）
- ・ 人材（産・官・学） 40万市民
- ・ 子どもたちのための市民大農園

実現したい

どのようなことを実現してほしいですか？やっけてほしいですか？

- ・ 住民のマニフェストを掲げる。
- ・ 想いを実現できる仕組みをつくる。
- ・ ハードでなくソフトを重視する。

- ・ 老若男女，才能を伸ばし活かせるまち
- ・ ビルは要らない。自然を残す。
- ・ 安全・安心なまち
- ・ 職（生産機能）・住機能のバランスのとれたまち
- ・ 考えを実行していくまち
- ・ 若い世代に子どものことを考える時間
- ・ 生きる・帰る場所
- ・ 「おかえりなさい」のまち
- ・ 仕事は定時に終えて，家に帰る。
- ・ 人材活用
- ・ コミュニティ
- ・ 産学連携
- ・ リゾートホテル
- ・ マーケット
- ・ 農業
- ・ 子育て（保育園）の充実
- ・ 高齢者向けバリアフリーの充実
- ・ 身障者との共生
- ・ 横浜藤沢線
- ・ 湘南モノレールの延伸
- ・ 防犯対策（該当・防犯カメラ）の充実
- ・ 交通安全
- ・ 藤沢駅南口の景観改善（パチンコ・飲食店）
- ・ 湘南台駅の景観改善（パチンコ・飲食店）
- ・ ハードのまちづくり
- ・ 藤沢駅（中心）の大改造
- ・ 安全で使いやすい・走りやすい道路（自転車帯の確保）
- ・ 農業・漁業（第一次産業）
- ・ 教育の方向性
- ・ 自給率の向上
- ・ 中高生との協働・共生
- ・ 障害者・独居老人が安心して暮らせるまち
- ・ 長期の目線の行政～単年度会計はやめる。
- ・ SFCを拠点に文化を発展させたい。
- ・ 経済問題研究所等，世界に誇れる文化拠点がほしい。
- ・ 思いやりのある子どもを育てる環境づくり
- ・ 日本の文化を知る。
- ・ 表情豊かな子どもを増やす。
- ・ 南北格差をなくす。
- ・ 交通の利便性をアップする。
- ・ 学生と商店街がかかわりも持つ，活気あるまちをつくる。

- ・ 自然環境の確保
- ・ 援農ボランティアの育成
- ・ 地産地消の推進
- ・ 飛行機の騒音をなくす。
- ・ 景色を良くしたい。
- ・ 地域のつながりを強くしたい。(学校・家庭・地域)
- ・ 景色などの資源を活かして、市全域で実施され、全国的に有名な祭りを行いたい。
- ・ 騒音・公害をなくしたい。
- ・ 30年後に、次の世代も含め住みたいと思うまちを実現したい。
- ・ 年寄りが楽しく過ごせる居場所を増やしたい。
- ・ 線路等で分断されない交通に配慮したまちづくり
- ・ 健康な高齢者のための施設の増設
- ・ 青少年会館・児童館を藤沢駅周辺の建設
- ・ 藤沢駅に保育・高齢者施設を含んだ駅ビルを建設
- ・ 新しい交通システム(LRT)等の導入
- ・ 子育て関連施設(大規模でなくて良い)
- ・ 医療施設の充実
- ・ 道路等交通ネットワークの整備
- ・ 農業の発信(地産地消)
- ・ 産業(農・漁・商・産)の活性化と活かせるネットワークづくり
- ・ 新しいまちづくり(村岡新駅)
- ・ 子育て環境の充実による子どもの増加
- ・ 元気老人を増やす。
- ・ 保育と高齢施設の複合化
- ・ 外に出る機会を増やす。
- ・ 子どもを育てやすい環境づくり
- ・ コミュニティバスの運行
- ・ エレベーターの設置
- ・ 南も北も自然を大切にしたい。
- ・ 南は海・砂浜・松林を大切にしたい。
- ・ 北は畑、農業、里山、野菜を大切にしたいが、経済面では厳しい。
- ・ 本物の湘南ブランド(とは何か?)
- ・ 人材育成(良い先生、良いリーダーの下に良い部下が育つ。)
- ・ ムクドリ対策(花を植えたり、オープンカフェをつくる。)
- ・ 駅や地域の拠点に老人ホームや保育所をつくり、高齢者や子どもが交流できるようにする。
- ・ 交通網の整備
- ・ 江の島にビジターセンターをつくる。
- ・ 街の景観を守る法律をつくる。
- ・ 特別養護老人ホームの待機者解消
- ・ 放棄田畑をなくす。

- ・ 郵便局の交差点の立体化
- ・ 村岡二天寺からのミニバスの運行
- ・ 村岡新駅の経過，現状分析と課題の公表
- ・ 横浜藤沢線の海岸までの開通

環 境

30年後の藤沢は，どんな環境になっているのでしょうか？

- ・ 環境にやさしいエネルギーを利用するまちをつくる。
- ・ 無駄な道路はつくらず，緑を増やす。
- ・ 騒音の少ないまちをつくる。
- ・ ユニバーサルデザインの生活環境をつくる。
- ・ 過しやすい藤沢を大切にする。
- ・ より住みやすい環境を目指しながらも，活力のある藤沢を目指す。
- ・ ゴミの有料化と資源化を推進してゴミを減量する。
- ・ 心休まるみどりを保ちたい。
- ・ 子どもが安心して遊べるみどりをつくりたい。
- ・ ゴミ・交通・モラル・財政を改善したい。
- ・ 市境問題・南北格差を解消したい。
- ・ 北の開発がクリーン環境・みどりの保全を前提にしたい。
- ・ 自然環境を保存したい。
- ・ 緑を残したい。
- ・ 果樹園を残したい。
- ・ 川と海の水質を保全したい。
- ・ 市街地の緑地（公園等）を確保したい。
- ・ 地産地消を進めたい。
- ・ 交通網を整備したい。
- ・ 幹線道路を立体化したい。
- ・ 新交通システムを採用したい。
- ・ 横浜との間に橋をつくってほしい。
- ・ ゴミ処理で再利用を進める。
- ・ マイカップ・マイボトルの使用を推進する。
- ・ 安全と健康・・・病院の充実・予防
- ・ ごみ収集が無料
- ・ 下水道の整備
- ・ 鮎が獲れる川
- ・ 海がめの名所に
- ・ 緑の保全・公園
- ・ 空からの音が消える（爆音）
- ・ カラス被害をなくす。黄色いゴミ袋を！
- ・ カワセミを見たい！産卵できるところが必要

- ・ 藤沢メダカ・ホテルを残す。
- ・ 子どもの非行に対して見今盛る環境をつくる。
- ・ 病気の人が少ない。病院の必要のない社会
- ・ 台風のそれるまち
- ・ 暴走族のいないまち
- ・ 落書きのないまち
- ・ 静けさと賑わいのまち
- ・ 子ども・高齢者が安心して歩け、防災にも配慮できる道を
- ・ 自然エネルギーの利用
- ・ 自家ゴミ処理
- ・ エコは当たり前
- ・ 自然は金をかけて保護
- ・ 一戸建てを残したい。
- ・ 木・森・海・川・空気・CO2 に配慮
- ・ 川～魚（アユ・ウナギ）が棲む・泳げる・景観（プレジャーボート）
- ・ 海岸～ゴミ・広域管理
- ・ きれいな街並み
- ・ 南欧風・西欧風な街並みづくり～都市計画で
- ・ 景観～看板・照明・色・高さ・素材
- ・ 市街地はマンションばかり
- ・ 風俗特区になる。
- ・ 緑をどんどん増やす。
- ・ 緑が多くて棲みやすいイメージをつくる。（今も 30 年後も）

変 化

30年後になくなってほしいものは何ですか？

- ・ 電柱がなくなってほしい。
- ・ 交通事故がなくなってほしい。
- ・ 渋滞がなくなってほしい。
- ・ 犯罪がなくなってほしい。
- ・ ホームレスがいなくなる社会になってほしい。
- ・ 心の拠りどころがなくなった。
- ・ 農業従事者を増加させる。
- ・ 地域の要望による地域開発の仕組み
- ・ パチンコ屋
- ・ ゴミ
- ・ 景観を壊すもの
- ・ 過度な都市開発
- ・ 音・騒音
- ・ 交通渋滞

- ・ 閉鎖的な社会に導くもの
- ・ いじめ・差別・偏見
- ・ 見てみぬフリの人間関係
- ・ 貧富の差
- ・ ゴミのポイ捨てをなくしたい。(海をきれいにしたい。)
- ・ 自然保護を主眼とした整理と開発
- ・ 遊休農地の課題
- ・ 荒廃地の課題
- ・ パチンコ屋のネオンの問題
- ・ 電柱の景観・安全性の問題

未来からのお願い

(30年後の気持ちになって) いまの藤沢の人たちをお願いしたいことは？

- ・ 太陽光発電が普及する。
- ・ 河川の浄化
- ・ 屋上緑化
- ・ 安心して子育てができる環境
- ・ ゴミ問題の解消
- ・ 地産地消の推進
- ・ 安全な将来

その他

<30年後も農業！>

- ・ 農産物の価格が安い。
- ・ 藤沢の人は多少高くても地元のものを買いたいが、売られていない。
- ・ 藤沢で農業生産法人を設立する。
- ・ 藤沢に広がる麦畑を実現したい。
- ・ 精米・麺・粉の向上などを充実したい。

<昔は川で泳げた>

- ・ 川から流れるプラゴミは、海で親亀がえさのクラゲと誤飲して死んでしまう。海がめの産卵ができない。

地区・領域別に話し合われたことのまとめ

第2回地域経営戦略100人委員会において話し合われた、地区別・領域別の課題等について、各グループが記載した心に残ったことや話し合いのまとめを、できるだけ原文のまま掲載したものです。

このグループ討議は、第3回以降の検討の下地とするための共通認識の場として開催したものです。

地区別ワークショップ

六会地区（テーマ：まちづくりの将来像）

- ・ 農業を大切に。今ある農地を残したい。
- ・ 石川丸山谷戸など、自然を大切に残したい。
- ・ 新しいセンターを中心とした地域コミュニティの再構築
- ・ センターは地区の防災拠点である。
- ・ 小田急線で分断されて、踏切は大変不便。六会駅前を再構築、整備して、まちのバリアフリー化を実現する。
- ・ 地域の資源とも言える日大と連携・協力する中で、まちづくりにその力を活かしたい。

長後地区（テーマ：長後のまちづくりの将来像（駅周辺・商店街の活性化）、農作物（地域の地産地消）

- ・ 物理的なこと（道路問題）、長後駅西口の開発によって、住民にメリットはあるのか。
- ・ 開発は、市政・県政の兼ね合いか。
- ・ 長後のまちの活性化＝住みよいまちになっていくのか？
- ・ 狭隘道路が多く、難しい（課題が多い）。
- ・ 農業によるまちの活性化が必要である。
- ・ 歴史＝大山街道のまち。史跡散歩や長後の発見、祭りによる新旧住民の交流の場が必要である。

善行地区（テーマ：住民の活動の拠点としての市民センターの新設）

- ・ 大会議室・小ホールが欲しい。
- ・ 団体共通の自由に使えるホール（ロッカーetc)
- ・ 善行の歴史観（昔活・展示 etc)
- ・ 子育て・高齢者支援活動（保育園・交流質の設置)
- ・ 駐車場
- ・ 環境にやさしい建物（太陽光発電・コ・ジェネ）。発電・熱利用から浴場の設置も可能
- ・ 弱者のための避難場としての役割
- ・ 駅からの歩きやすい道づくり（小田急線との連携出口設置)
- ・ 地区外利用者に向けての有料化システム

- ・ 経営としての有料施設（レストラン・カフェ・貸館）
- ・ 公民館としての学習施設

遠藤地区（テーマ：今後の運営方法，自然＝環境について，環境整備がされている。）

- ・ 自然を残すことに賛同を得て，力強く思った。
- ・ 里山を中心とした街並み，それがこれからの進むみち
- ・ 災害に強いまちづくり
- ・ 小出側に観光客が大勢来ている。自然がすばらしい。

湘南大庭地区（テーマ：この地区で残したいもの）

- ・ 街路樹の保存と整備
- ・ バリアフリーの充実とバイク・自転車等の整合
- ・ 今の街並み

藤沢地区（テーマ：藤沢地区のまちづくり（新公民館（建替え後）と連動した取り組み）

- ・ 総合計画の中に公民館の建替えを入れて貰う（位置づけ）
- ・ 新公民館は藤沢高校跡地で，藤沢本町駅，商店街，伊勢山公園，市民病院等の連携（活性化！）

鵠沼地区（テーマ：風景，環境，変化，実現したいもの）

- ・ 公園は残したいが，遊びに出てくる子どもがいない。
- ・ 子どもは塾やゲームで忙しい。公園使用の規制も多く，キャッチボールなどができないことが多い。
- ・ 犯罪に巻き込まれる危険性があるので，親が外に出さない。
- ・ 安心して子どもを産める環境を。
- ・ 高齢者が，生きがいを持って，元気で過ごせる環境を。
- ・ これから30年後は，湘南台が藤沢の中心になるのではないか。
- ・ 北部は，交通網が発達し，緑が少なくなり，人口は増加すると思う。
- ・ 南部（鵠沼海岸）は，海岸が狭くなり，高層ビルが立ち並ぶと思う。
- ・ 住みよいまちにするため，となり近所のふれあい，助け合いを大切にしたい。
- ・ 30年後にはもっとふれあいがなくなり，個人志向が強まるかもしれない。
- ・ 防災面では，ふれあい，助け合いがより必要だと思う。
- ・ 30年後は，電柱の地中化が進み，道が広くなり，緑化が進むかもしれない。
- ・ 大きな樹はいらないという意見もあり（日陰が多く，日照権を侵害するという理由）。
- ・ 30年後は，電気自動車が主流になり，各家庭に簡単な太陽光発電が普及すると思う。
- ・ 目に見えないがなくしたいもの＝「子どものいじめ」「犯罪」「登校拒否」「親の子どもへの虐待」

片瀬地区（テーマ：自然環境）

- ・ 川が汚い。昔は泳げた。最近は少しはきれいになった。
- ・ 砂浜が小さくなっている。施設や橋などの影響

- ・ 30年後には泳げる川であって欲しい。素敵な浜辺の海であってほしい。

御所見地区（テーマ：農業、地域計画）

- ・ 農業を通して、土から野菜を育て、食卓にのぼり、口に入るまでの食育を藤沢市民に体験してもらい、理解を深めることで、「藤沢」に対する「郷土愛」を市民ひとりひとりが養うことが大切！
- ・ 農業生産法人化へ
- ・ 大型直売所（道の駅・御所見ブランド）＝雇用の場の創設
- ・ 農業を残すことで景観～環境まで保存できる。
- ・ 地域で農業をやめる方、後継者がいない農家に参画してもらって農地を集める、技術は農家、労働力は地元の若者やシニアの方、学校や病院、地元スーパーに野菜を出荷
- ・ 福祉・教育・まちづくり・観光がつながり、総合計画に値する良質の地域計画を作成する。またその基盤としての会議・組織をつくる。

湘南台地区（テーマ：「湘南台らしさ」について～湘南台の魅力や課題、個別課題等をもとに意見交換を行う）

- ・ 病院が欲しい。
- ・ 3線の乗り入れの立地が良い。
- ・ 産婦人科がない。
- ・ 高齢化が進んでいる。エスタテラの将来も同様。若い世代に来てもらいたい。
- ・ ほとんどが通勤者＝週末対策
- ・ 子ども（次世代）が帰ってこない。
- ・ 交通・防災の安全安心
- ・ 高齢者福祉・子育て福祉
- ・ 地産地消の促進…地域の産物を使ったレストラン・学校給食。県下で有数の生産量を誇る産物がある。
- ・ 駅前対策…ネオン等、産業誘致の種類（選別）、まちづくりの防犯対策、門灯の点灯補助…太陽光
- ・ 湘南台でのアンケート実施
- ・ 湘南台での犯罪…空き巣

辻堂地区（テーマ：環境（歴史・文化保存）（自然環境）、湘南（定義）

- ・ 地元の文化、歴史環境を守っていきたい。
- ・ 自分たちでは「藤沢らしさ」などといわない、外からいうのではないか。
- ・ 湘南に対するこだわりが強い。

明治地区（テーマ：明治の魅力と自慢）

- ・ 北部の緑
- ・ 若いお母さん・お父さんなど幅広い公民館利用者が多く活气的
- ・ ニコニコスペース・耕途塾はすばらしい。

- ・ C-X のイメージが良い。

村岡地区（テーマ：環境について）

- ・ 小塚地下道から古館橋間の道路の拡幅
- ・ ごみの課題は、自治町内会未加入者のモラルが課題となっている。
- ・ 公園のごみが多いと感じる。
- ・ 近隣住民がボランティアとして集めている。
- ・ 利用者（若者？）のモラルが守られていない。
- ・ 市の条例，看板だけでは効果がない。
- ・ 新林，川名緑地が大切
- ・ 限られた緑が失われた。

領域別ワークショップ

多文化共生・男女共生（テーマ：「共生」について，多文化と異文化について）

- ・ 共通点を見つける機会があれば，友人になれる。
- ・ コミュニケーションが基本（垣根をとること）。
- ・ 接する機会が重要。生み出すためにはスポーツ等
- ・ 自分の生活が忙しくなると，共生の意識が薄くなることが課題

子育て・教育

- ・ 家庭・地域の教育力が落ち，学校で問題が起きている。
- ・ 身の周りの子どもたちがやる気がない，前向きではない。
- ・ 「誰かのために」という意識が薄い。
- ・ ユースリーダーをつくりたい。
- ・ 子供会に対する行政支援を。
- ・ 子供会は社会教育の一環。地域のかかわりを強く。
- ・ 親・子・社会の関わる場を守っていきたい。
- ・ 親子の接点が希薄
- ・ 子育てしやすいまち・藤沢…ちゃんとアプローチすれば，子供を受け入れてくれる環境はある。
- ・ 学校に芝を生やしたい。

地域コミュニティ（テーマ：コミュニティとは・コミュニティをつくるには）

- ・ 観覧車のイメージ…いくつかの論点について，あらかじめ用意し，必要になった人々が一斉にワッと乗り込める。
- ・ 情報共有は，ありとあらゆる媒介を使って
- ・ 自分の今の生活の問題とコミュニティが論じている問題がマッチしない。
- ・ 藤沢は南北に広いため，各々自慢できるポイントで集まれる「地域」づくり，ポジティブに感覚で集まる。

芸術・文化（テーマ：市内の芸術・文化のあり方）

- ・ 作品を発表する場がない。
- ・ 自分たちのまちの文化・歴史を知る機会が少ない。
- ・ 歴史・文化に基づいた観光があるべき
- ・ 生まれ育ったところを語れない。

福祉・医療

- ・ 市内の医療と福祉の資源について 市民病院は臓器別診療科制で、開設当初より運営されている数少ない病院である。
- ・ 市内の医療と福祉の資源について 医療より福祉については、特別養護老人ホームの待機者がおり、解消されていない。またこれを担う家庭での介護力が低下してきている。居宅サービスをさらに充実する必要がある。

環境（テーマ：藤沢市の森林,海など）

- ・ 桜などの植林，神社・寺などの緑地保全
- ・ 湘南海岸の松林（ホームレスの問題）
- ・ 川をきれいに。

地域まちづくり

- ・ 皆さんの地域を愛する情熱が伝わり，今後の話し合いが楽しみとなった。
- ・ 他の領域に比し参加人数がおおいは，それだけ楽しみがあるということだろう。
- ・ これ以上人口が増えないようにとの意見もあった。

産業

- ・ かわせみ学園・ふじさわを知ろう
- ・ マップづくり・史跡
- ・ 東海道を歩く→藤沢が汚い？きれいにしたい！
- ・ 団塊塾・藤沢の活性化
- ・ 歳入を増やす取り組みを
- ・ 失業率 5.7%…就業率 up！
- ・ 企業誘致
- ・ 職業教育
- ・ 観光振興
- ・ マーケティング・ニーズの把握
- ・ 情報・IT・教育…
- ・ リサイクル・環境
- ・ 国際問題研究所
- ・ 企業と共に計画づくり
- ・ 地域おこし，地産地消
- ・ 観光などに特化する。

安全・安心（テーマ：街灯について・民間交番はどうですか？）

- ・ 夜が危ない。夜が暗い。夜道を明るくしよう。
- ・ パトロールの強化
- ・ 学校・保育所の近くでパトロール
- ・ 高齢者・児童生徒の行き交うところが危ない。
- ・ 小学生が危ない。子育て中の人も自転車をとばす。
- ・ イルミネーション365。家で灯りをつけるキャンペーン
- ・ 放火が2件続けてあった。→藤沢も安全ではなくなってきた。
- ・ 民間交番は鵜沼と村岡にあるけど、もっと増やしたほうが良い。
- ・ 鵜沼では毎月パトロールを実施している。

新総合計画の構造と基本構想策定のプロセス

- | | | |
|-----|-------------|--------|
| I | 新総合計画の構造 | — p 2 |
| II | 基本構想策定のプロセス | — p 8 |
| III | 議論整理のツール | — p 18 |

2009年（平成21年）10月3日

経営企画部経営企画課



I 新総合計画の構造

- 1 新総合計画の構造
 - 1-1 新総合計画の構造 — p 3
 - 1-2 新総合計画づくりのふじさわモデル — p 4

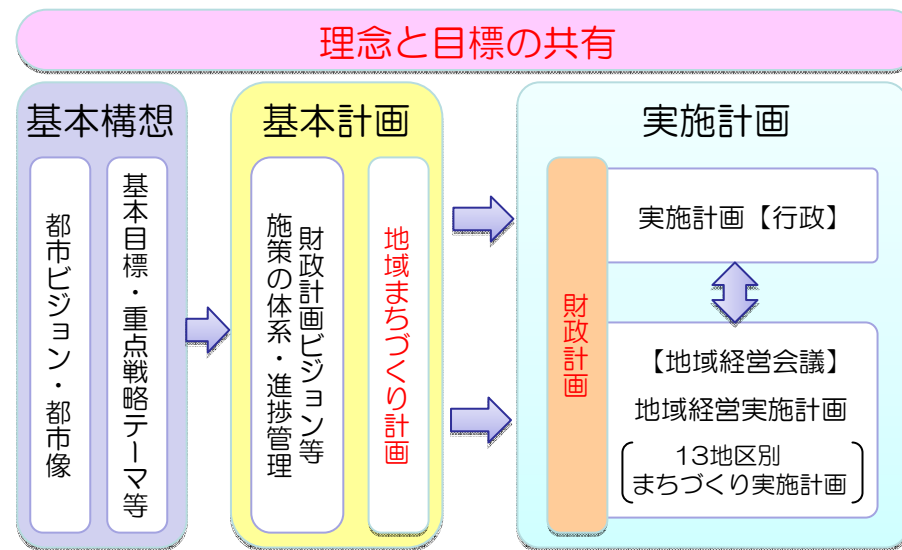
- 2 基本構想・基本計画・実施計画の役割
 - 2-1 基本構想の役割 — p 5
 - 2-2 基本計画の役割 — p 6
 - 2-3 実施計画の役割 — p 7



①基本構想	<h3>未来へ向けた“構想”</h3> <ul style="list-style-type: none">・方向性を示すもの。「未来の藤沢らしさ」の“構想（＝見通し）”・2011年度～2030年度（20年間）を見通す。・より具体的に取り組むことを検討する「基本計画」「実施計画」の方向性を示す。
②基本計画	<h3>“基本（＝土台・基盤）”となる計画</h3> <ul style="list-style-type: none">・基本構想と実施計画をつなぐもの<ul style="list-style-type: none">－ “基本構想”を念頭においたときの、具体的な「課題」を扱うための“計画”－ “実施”をする際の“基本（＝土台・基盤）”となる計画・地域まちづくり計画（地域ごとの課題や指標・方向性等）・政策・施策のPDCAサイクルの「進捗管理等」の方針を示す。・基本計画と実施計画をつなぐ中長期財政計画ビジョンの方針を示す。・12年間（3年ごとのローリング）を想定。
③実施計画	<h3>“実施”するための計画</h3> <ul style="list-style-type: none">・“基本計画”を達成するための“実施”の計画<ol style="list-style-type: none">① 市域全体の実施計画② 地域経営実施計画（13地区別のまちづくり実施計画）③ 短期財政計画（3年）・3年間の計画（1年ごとの事業と財政計画の見直し）＝社会状況の急激な変化等への対応

ふじさわモデル

- 試行錯誤の実践を促すためのもの
- 市民生活や課題の現状を常に確認しながら、行政も地域も試行錯誤をする（＝地域経営をするための計画）
- 地域経営・市民主体のまちづくりのツール（役割）



①基本構想の役割

未来へ向けた“構想”

- ・方向性を示すもの。「未来の藤沢らしさ」の“構想（＝見通し）”
- ・2011年度～2030年度（20年間）を見通す。
- ・より具体的に取り組むことを検討する「基本計画」「実施計画」の方向性を示す。

ポイント

- ★「藤沢らしさ（現在、未来）」「藤沢全体の強み・弱み（現在、未来）」「**地区ごとの実感**」などから考えるもの。特に、未来を見据えること、未来から考えることが大切。
 - ★できるだけ鮮度が良い、幅の広い素材（観点）をたくさん出すことが必要。
 - 100人委員会からは：（全市的な観点も念頭に）**地域・生活の実感**に基づく素材を提供
 - 地域経営会議からは：**地区ごとの課題や実感**にもとづく素材を提供
 - 市役所（わいわい・がやがや・わくわく会議）での検討からは：いま取り組んでいる**活動の実感**から素材を提供
 - 市役所の庁内新総合計画検討会議からは：**将来予測に基づく課題抽出**の素材を提供
- ⇒ 総合計画審議会が**幅広く、新鮮な素材**を集めて、**切れ味よくまとめていき**、さらに関係者協働で**磨き上げる**

②基本計画の役割

“基本（＝土台・基盤）”となる計画

- ・基本構想と実施計画をつなぐもの
 - “基本構想”を念頭においたときの、具体的な「課題」を扱うための“計画”
 - “実施”をする際の“基本（＝土台・基盤）”となる計画
- ・地域まちづくり計画（地域ごとの課題や指標・方向性等）
- ・政策・施策のPDCAサイクルの「進捗管理等」の方針を示す。
- ・基本計画と実施計画をつなぐ中長期財政計画ビジョンの方針を示す。
- ・12年間（3年ごとのローリング）を想定。

ポイント

- ★ 未来像を実現するための「**課題（＝改善すること&伸ばすこと）**」を様々な立場から徹底的に**洗い出す**
- ★ 政策・施策の**重点化**と目標の設定のために**メリハリ**ある形で整理する
- ★ 「課題」の**現状を評価できるようにする（＝指標づくりを行う）**
 - ⇒ 計画（Plan）は、実施（Do）→評価（Check）→改善（Action）→計画→…の持続的なサイクルにつなげるもの。基本計画の段階から評価と改善ができるように設計する。
 - ⇒ 「指標づくり」＝**共通の目標**を持つことで、様々な主体が**地域協働で評価**できるようにする。
- ★ 各地域の特徴を反映した「**地域まちづくり計画**」を位置づける
 - ⇒ 地域ごとにも「課題」や「指標」の特徴を検討する
- ★ 政策・施策のPDCAサイクルの「進捗管理」システムを位置づける。
- ★ 基本計画と実施計画の関連性をはかるための、中長期財政計画ビジョンを位置づける。

③実施計画の役割

“実施”するための計画

- ・ “基本計画”を達成するための“実施”の計画
 - ① 市域全体の実施計画
 - ② 地域経営実施計画（13地区別のまちづくり実施計画）
 - ③ 短期財政計画（3年）
- ・ 3年間の計画（1年ごとの事業と財政計画の見直し）＝社会状況の急激な変化等への対応

ポイント

- ★ **基本計画を実現**するための実施計画をつくる。
 - ① 市域全体の実施計画
 - ② 地域経営実施計画：13地区別のまちづくり実施計画
- ★ 「課題」の解決に向けて、**全市と地域・テーマの相乗効果**を促すことも大切。
 - 相互に学びあう工夫、全市的な相乗効果を出す工夫、魅力を発掘して伸ばしていく工夫など
- ★ 短期財政計画（3年）を位置づけ、基本計画と実施計画の連携をはかる。社会経済状況の変化に迅速に対応する視点から、1年ごとに事業と財政計画を見直す。

Ⅱ 基本構想策定のプロセス

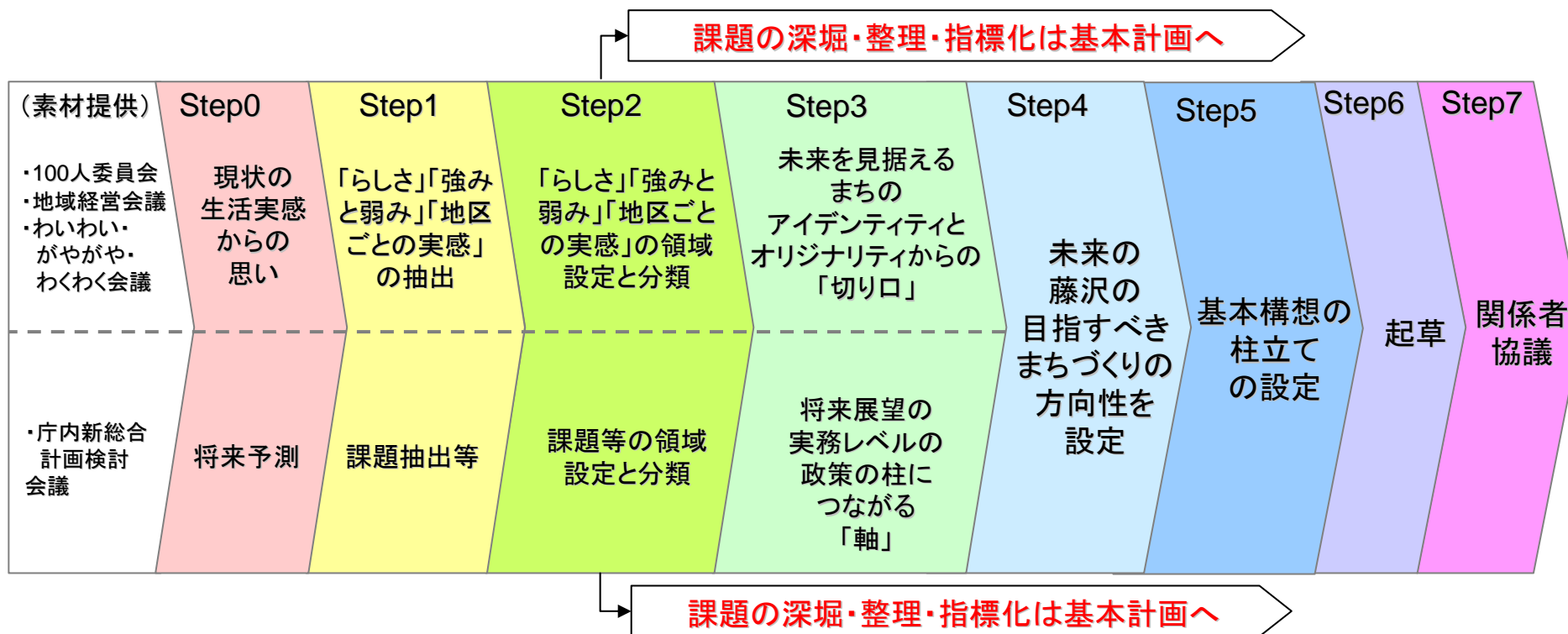
- 1 基本構想策定のプロセス
 - 1-1 基本構想策定のプロセス － p 9

- 2 各ステップの活動
 - 2-1 「課題」と「らしさ」「強み・弱み」
「地区ごとの実感」の抽出（Step0～Step1） － p 10
 - 2-2 「らしさ」と「課題」の領域設定と分類
（Step2） － p 11
 - 2-3 基本構想の「切り口」と「軸」の設定
（Step3） － p 12
 - 2-4 藤沢が目指す「まちづくりの方向性」
の設定（Step4） － p 13
 - 2-5 基本構想の構成・柱立ての検討（Step5） － p 14
 - 2-6 基本構想の「起草」（Step6） － p 15
 - 2-7 関係者との協議（Step7） － p 16



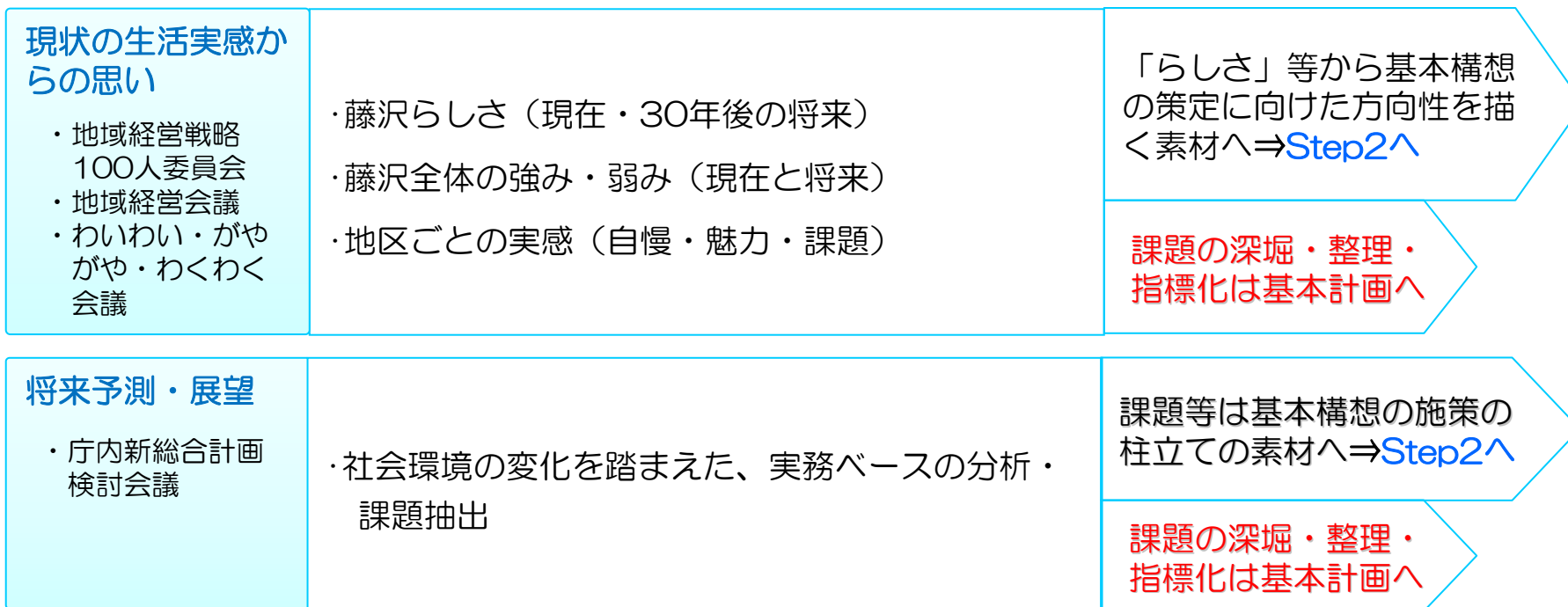
- ▶ 「現状の生活実感からの思いと将来予測」から、起草までをStep0～7の8ステップに区分し、総合計画審議会が幅広く新鮮な素材を集めて、切れ味よく「基本構想案」をまとめる。
- ▶ 地域経営戦略100人委員会、市民1000人討論などの関係者と協働で構想を磨き上げる。

▶ 基本構想策定のプロセス



[Step0～Step1]

- 現状と将来予測に基づき、「現状の生活実感」の思いからは「藤沢らしさ（現在・30年後の将来）」「藤沢全体の強み・弱み」「地域ごとの実感（自慢・魅力・課題）」を読み解く（定性的分析課題）
- 「将来の予測」からは、実務者の視点から、社会環境の変化から生じる課題を読み解く（定量的分析課題）



[Step2]

- ▶ 生活実感にもとづく「藤沢らしさ（現在・30年後の将来）」「藤沢全体の強み・弱み」「地域ごとの実感（自慢・魅力・課題）」と実務視点からの「将来予測からを読み解く課題」から抽出された「新鮮な素材」を、領域設定を行い、分類する。
- ▶ 領域ごとに分類され「収束された素材」から、20年後、30年後を見通し、基本構想の方向性のヒント、イメージを読み解いていく。

定性的分析課題

- ・藤沢らしさ
- ・藤沢の強み・弱み
- ・地域ごとの実感

- ①都市力と魅力 ②次世代への継承
- ③生活実感・課題 ④30年後の未来

基本構想の策定に向けた未来。将来の見通しへ
⇒Step3へ

- ⑤地域の魅力 ⑥地域経営

地域別まちづくり計画へ
(基本計画)

定量的分析課題

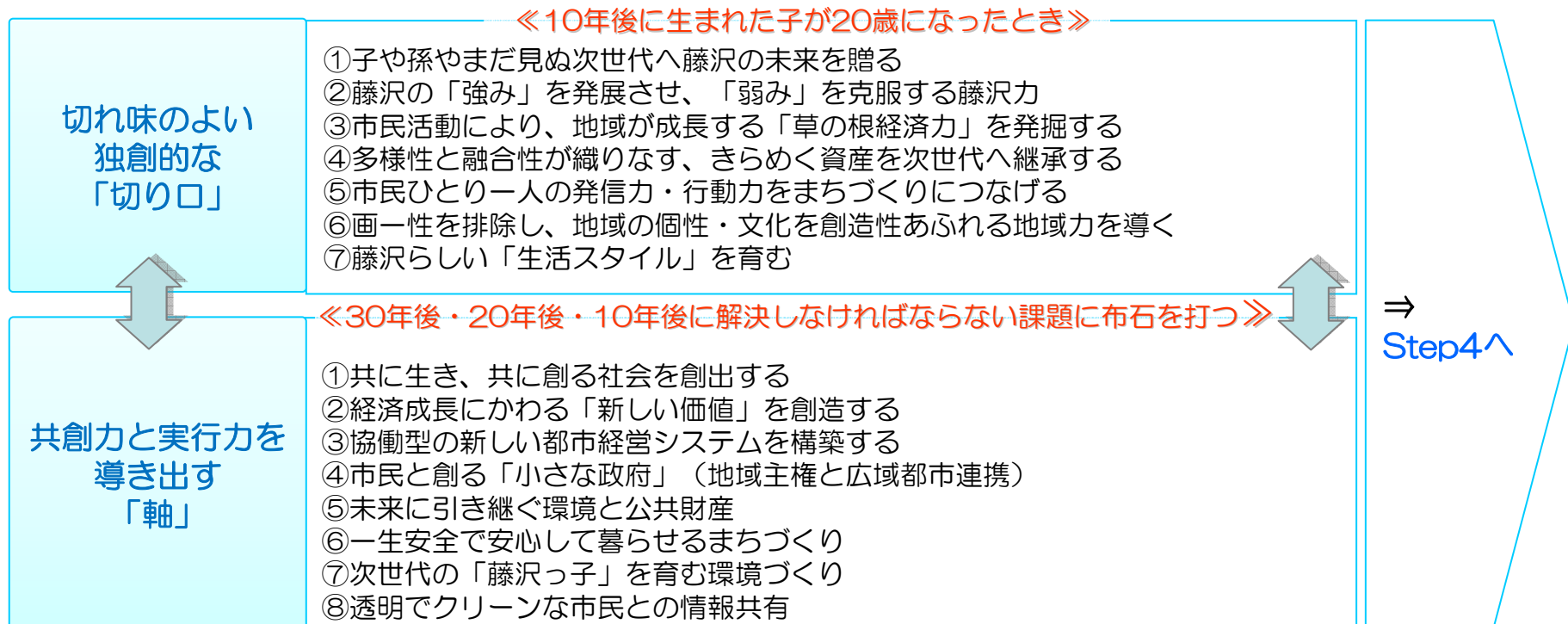
- ・庁内新総合計画
検討会議

- ⑦子育て ⑧教育 ⑨安全・安心
- ⑩健康・福祉・医療 ⑪環境 ⑫産業
- ⑬都市基盤 ⑭芸術・文化
- ⑮共生と協働 ⑯地域主権と広域連携
- ⑰都市経営

基本構想の施策の方向性へ
⇒Step3へ

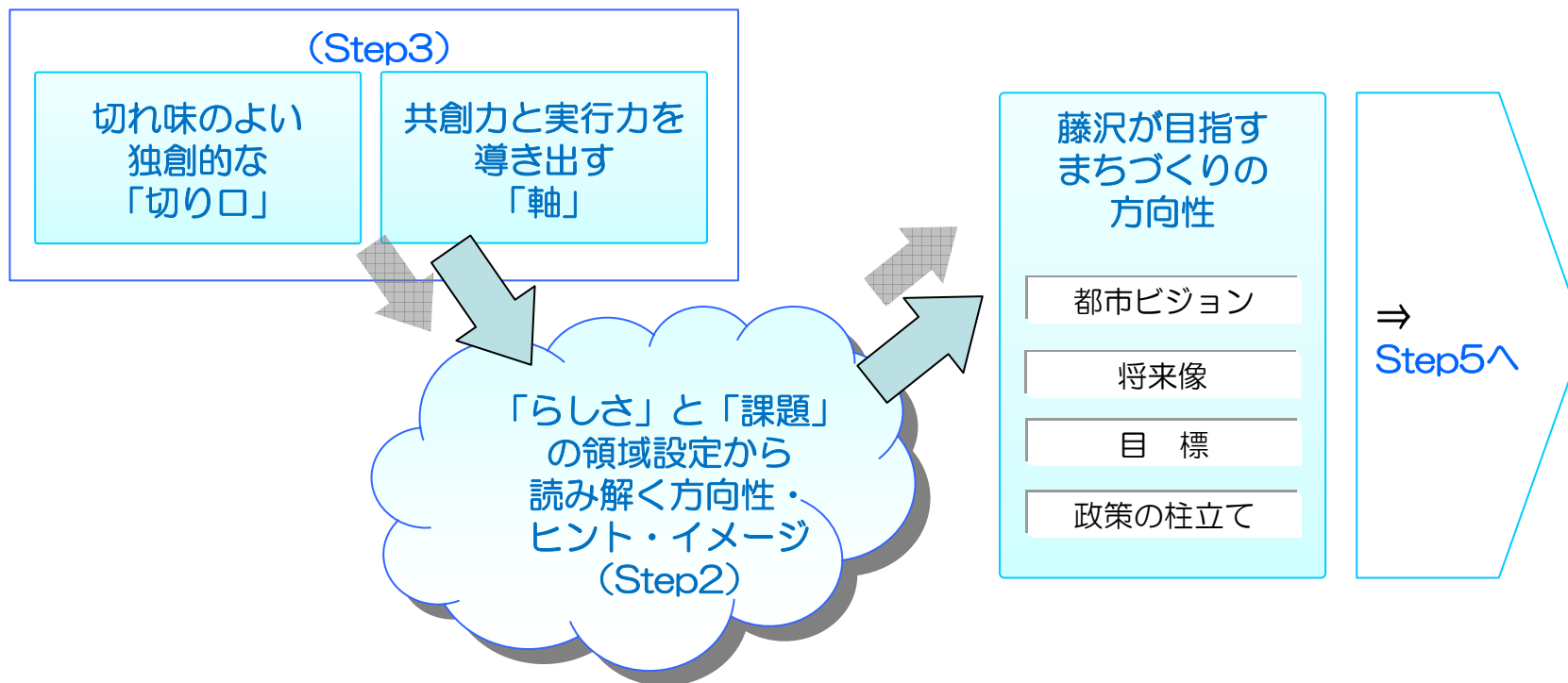
[Step3]

- ▶ 17領域ごとに分類した「収束した素材」について、市民の目線である①藤沢の30年後の未来や藤沢のもつアイデンティティとオリジナリティなどから「切れ味」のよい、独創的な都市ビジョン・将来像等を描くための「切り口」を設定する。
- ▶ 17領域ごとに分類した「収束した素材」から、本市が目指すべき将来像やまちづくりの理念を策定するための目標化・施策の柱立ての方向性につながる「共創力」と「実行力」を導き出す「軸」を設定する。



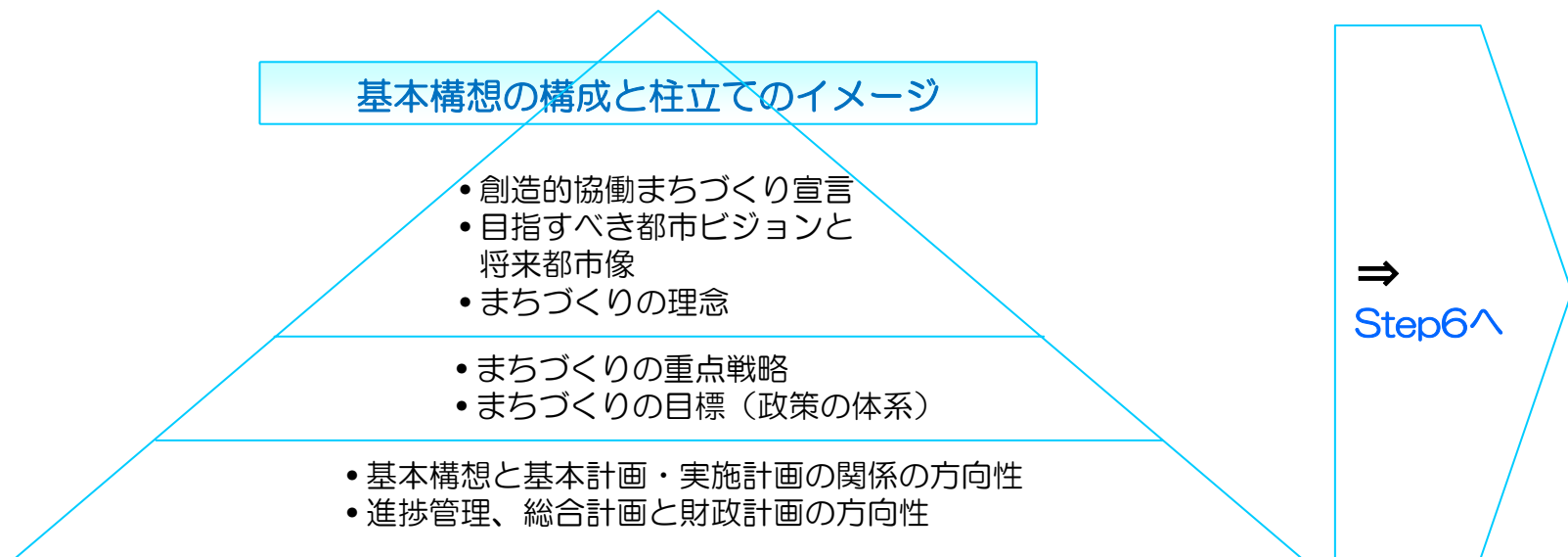
[Step4]

- ▶ 「らしさ」と「課題」抽出の領域設定と分類により「収束された素材」から、基本構想の方向性、ヒント、イメージを読み解き（Step2）、基本構想の「切り口」と「軸」（Step3）から基本構想の都市ビジョン・将来像や、目標化、政策の柱立ての方向性を導き、「藤沢が目指すまちづくりの方向性」を設定する。



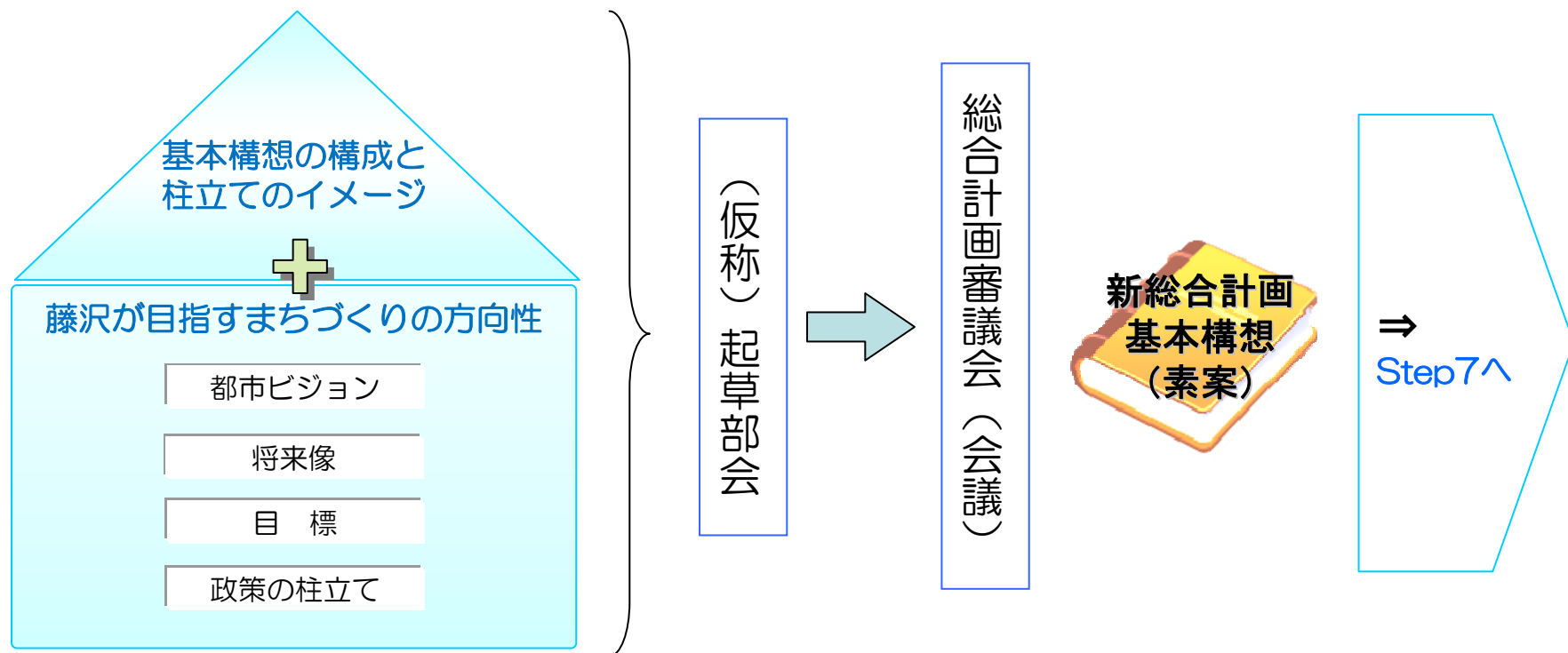
[Step5]

- 「一生住み続けたいまち 湘南藤沢」の実現を図るための、本市が目指すべき将来像やまちづくりの理念、基本目標や施策の体系、基本計画・実施計画の方向性などの「構成と柱立て」を検討します。
- 基本構想は、単なる行政計画ではなく、三層構造の仕組みによる“検討プロセス”や、地域主体のまちづくりの担い手である地域経営会議による“実践活動”を視野に、市民・NPO・企業・行政…が協働で、地域経営や市民主体のまちづくりを進めるための“ツール”として位置づける。
- 基本構想は、従来型の「都市像・基本理念・基本目標」の構成にこだわらず、藤沢の「創造的協働」の視点から、新しいスタイルを位置づける。



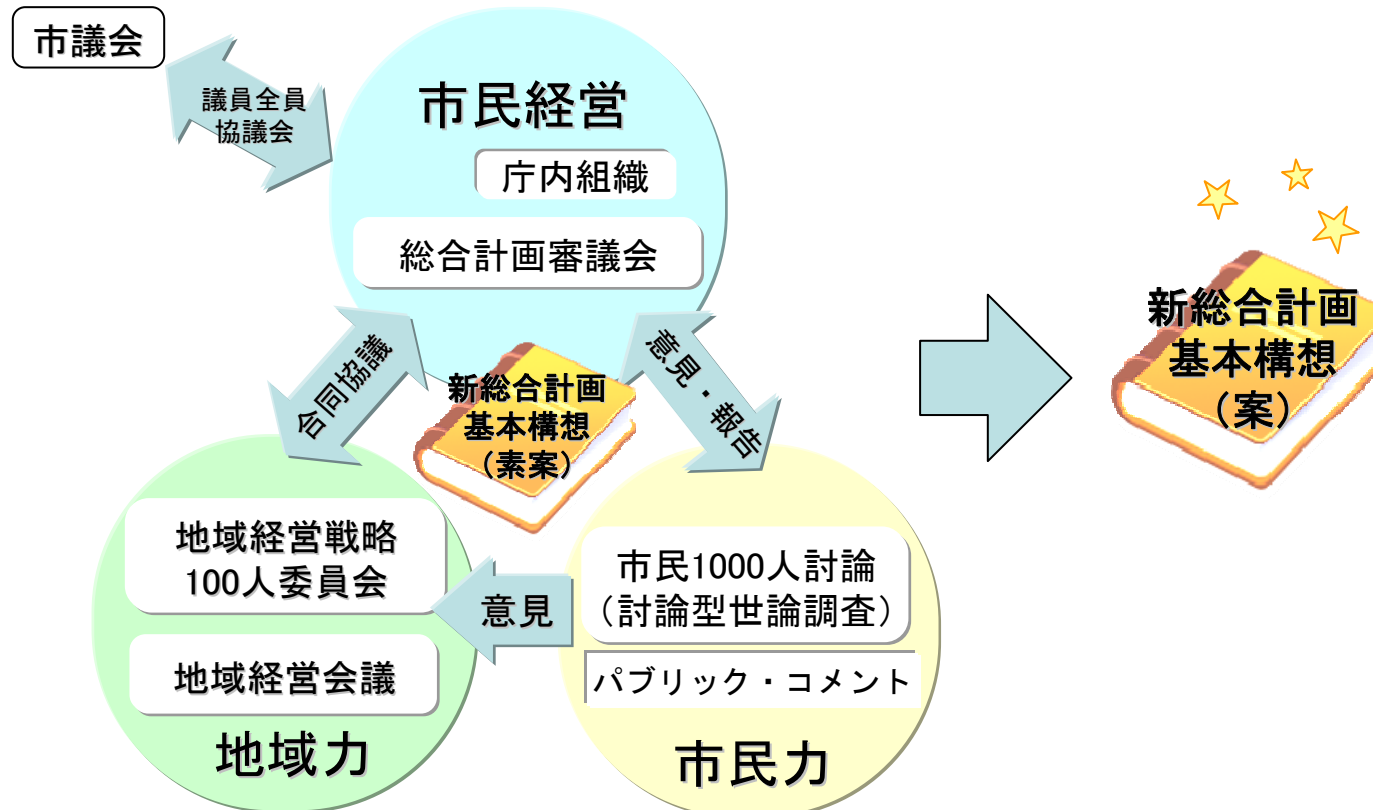
[Step6]

- ▶ 基本構想のまちづくりの方向性及び基本構想の「構成と柱立て」にもとづき、基本構想の起草を行う。
- ▶ 総合計画審議会に「（仮称）起草部会」を設置する。



[Step7]

- 起草による「基本構想（素案）」は、総合計画審議会と地域経営戦略100人委員会との合同協議、パブリック・コメント、藤沢市議会議員全員協議会、市民1000人討論などを通じて、意見・提案をいただき、「基本構想（案）」へと磨きあげる。

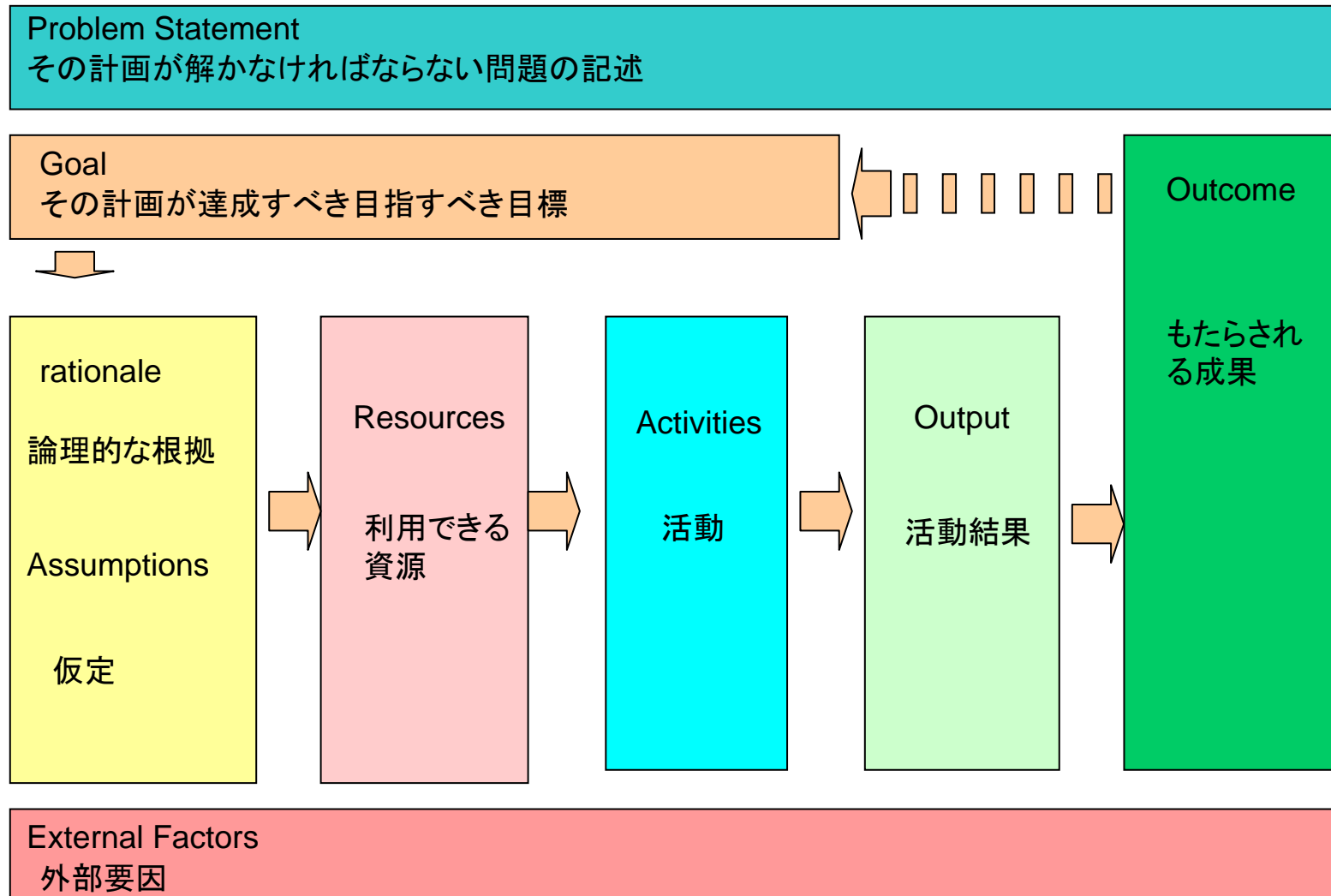


Ⅲ 議論整理のツール

- 3-1 問題からの発想
（ Logic Model Components ）
— p 18
- 3-2 プロジェクト：問題から計画へ
— p 19
- 3-3 参考：問題の分析
— p 21
- 3-4 マネジメント：計画から経営へ
（地域経営による高い成果（アウトカム）の実現）
— p 22



Johns Hopkins, Bloomberg School of Public Health



Problem Statement 問題設定

Nonprofits often have negative perceptions about evaluation, as something that is "done to them". Negative perceptions cause nonprofits to avoid evaluation, instead of reaping its benefits.

Goal 目標

To create a sample logic model, so that other nonprofits may gain confidence in creating their own logic models.

Logic Model Diagram:
Logic Model for Sample Program A

Long-Term Outcomes 長期的成果

Better planning leads to more effective programs and a stronger nonprofit sector.

Rationales 根拠

People are more likely to try something new if they can see an example first.

Assumptions 仮定

Even a non-specific logic model, that does not fall into a programmatic area, could be helpful from a heuristic standpoint.

Resources 資源

Human Resources:
One Point K administrator.

One computer with internet connection.

two to four hours.

Activity Groups 活動 Outputs 結果

Build a logic model.

One completed logic model
One printed Presentation View

Intermediate-Term Outcomes 中期の成果

Point K visitors build logic models for their own programs.

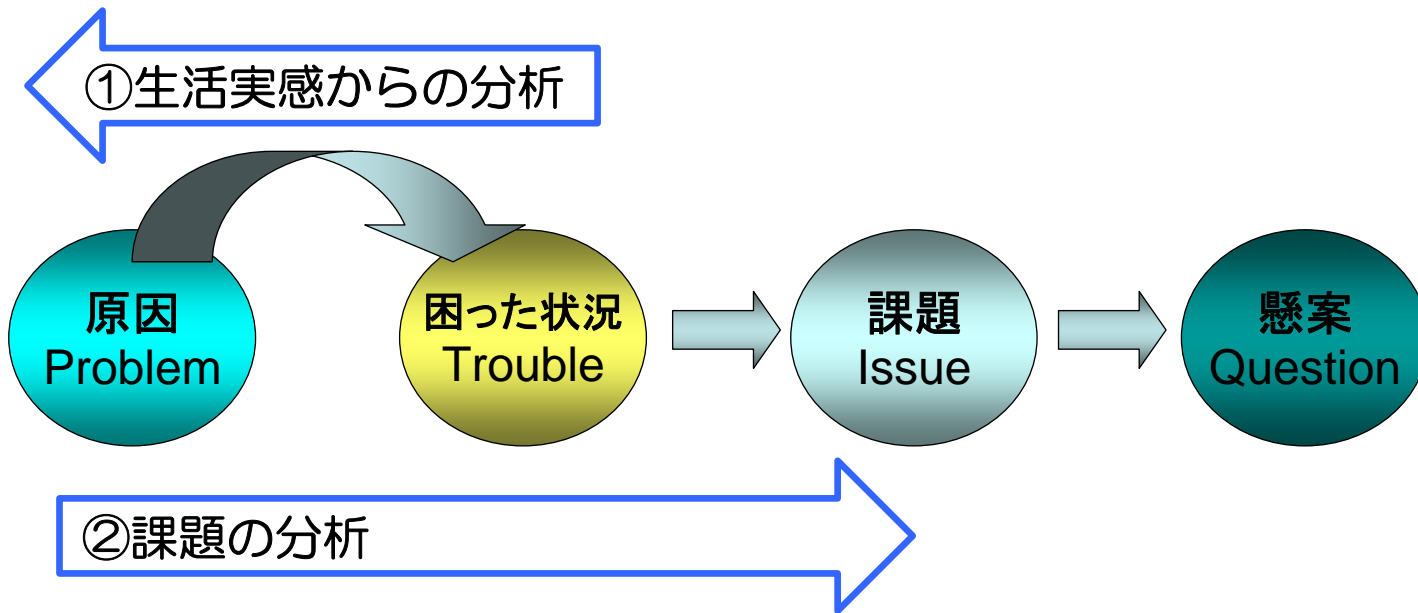
Short-Term Outcomes 短期の成果

Point K visitors have improved knowledge of logic models.

Sone, Long-term City Planning, 2009

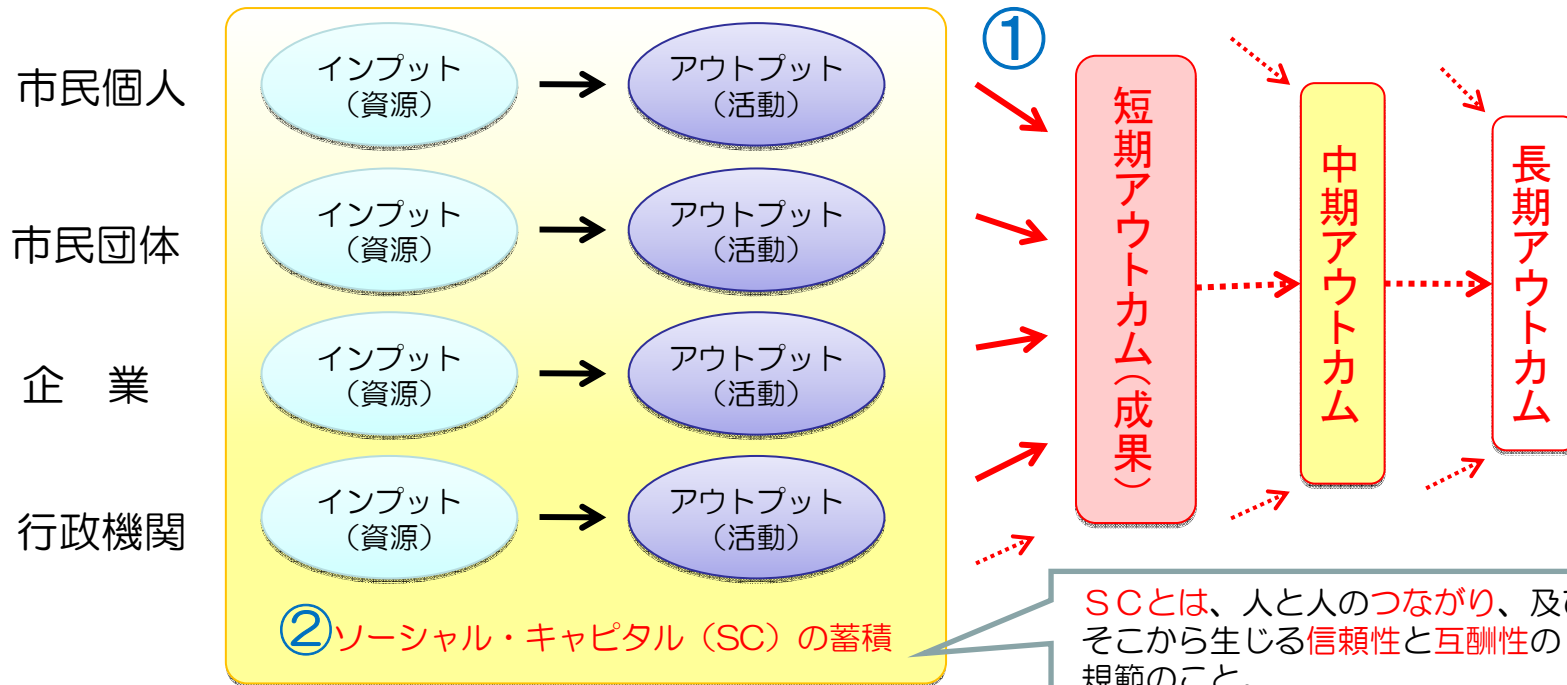
<問題とは何か>

Trouble	困っている「状況」
Problem	状況が発生している「原因」
Issue	現状の何を変革すべきかという「課題」
Question	課題を解決するための具体的な「懸案」

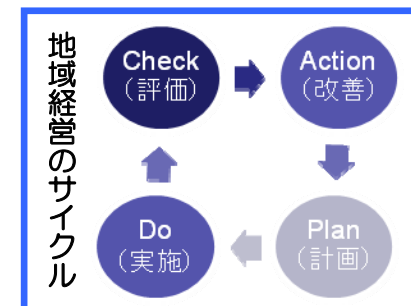


3-4 マネジメント：計画から経営へ (地域経営による生産性の高い成果(アウトカム)の実現)

- ① 高いアウトカム(成果)を実現するには…
 アウトカムは多様な主体による「アウトプット提供」の相乗効果によって実現
 → 効果的な自発的協力関係と役割分担による生産性の向上が必要



- ② アウトカムを実現する生産性を上げるには…
 SCが蓄積することで 自発的協力関係 と 効果的な役割分担 を
 生み出しやすくなる = 高いアウトカムを実現する生産性が上がる
 = 地域経営の力



「らしさ」と「課題」抽出の領域設定と分類（STEP 2）

生活実感に基づく「藤沢らしさ（現在と30年後の将来）」「藤沢全体の強みと弱み」「地区ごとの実感（自慢・魅力・課題）」と実務視点からの「将来予測から読み解く課題等」から抽出された「新鮮な素材」について、領域設定を行い、分類する。

領域ごとに分類され、集約された素材から、20年後、30年後を見通し、基本構想の方向性を読み解いていく。

定性的分析による課題等～「藤沢らしさ」・「強み・弱み」・「実感」

<領域設定と分類>

都市力と魅力

- ・ 藤沢の持つ海・川・里山・緑地等と温暖な気候が醸し出す藤沢の自然・景観環境が織りなす藤沢の魅力を都市の資産として継承・発展させる。
- ・ 本町を中心とした東海道宿場町としての面影や鵠沼一帯の湘南邸園文化、東家を中心に生まれてきた大正・昭和初期の逗留・芸術文化、北部丘陵に織り込まれた田園風景、川名清水谷戸・石川丸山・遠藤笹窪谷戸がおりなす里山のみどり、藤沢の中部・北部に点在する歴史的建造物群、引地川・境川がもたらす豊かな自然環境、安藤広重にも描かれた江の島から見る富士の景観など、北と南の地勢がおりなす自然と歴史と文化を守り育てる。

次世代への継承

- ・ 藤沢の持つ包容力は、古くから住んでいる人が新しい人を受け入れ、新しく移り住んで来た人が昔ながらの歴史、文化を学び、相互が認知し合い、混在させながら藤沢を形づくってきた藤沢包容力を次世代に

つなげる。

- ・ 現役世代が、子や孫やまだ見ぬ次世代のために、自然・歴史・文化と社会資本を継承していくために、市民ひとり一人がまちづくりの担い手になる。
- ・ 湘南藤沢の感性を活かせるまちの気風や、ハイセンスな文化の香り、「あなたはどこに住んでいるの?」「私は湘南」と答えるだけで憧れの存在になる、まちのブランド力を次世代に継承したい。

生活実感・課題

- ・ 住みやすい、ずっと住み続けたい、終の棲家にしたい、人がガサガサしない、人がいいので住みやすい、藤沢で育った人はいずれ戻って住みたい、女性が住みやすい、お年寄りも子供も OK、今の生活実感の藤沢の魅力を大切する。
- ・ 藤沢に住んで感じたことは、あまり保守的でなく、人柄がよく、アクのなさが良い。また、オープンでウェルカム、オールマイティな心を持つことができ、住んでいる人が、豊かさ、おおらかさ、明るさ、素直さを持った気質のまちの心を継承する。
- ・ 首都圏（東京・横浜）にも近く、観光地（箱根・伊豆など）にも近く、学園都市としての魅力を持ち、住む・働く・学ぶ環境がコンパクトに凝縮されたまちである。

30年後の未来

- ・ 湘南の海、緑豊かな引地川・境川・小出川、北部丘陵の田園風景と緑、東海道の宿場町の面影、市内に点在する歴史文化資産を30年後の子どもたちに自慢したい。
- ・ 地域ごとに変化の富んだ個性と海・川・里山の自然に富んだ風景が育む地域文化・農業・漁業などの都市活動を30年後にも残したい。
- ・ 私たちが守り育ててきた自然環境を保全・形成しながら、30年後の子どもたちに安心して暮らせる生活環境を継承したい。
- ・ 高齢化社会を受け止めて、生涯元気で地域に貢献し、高齢者の知恵と

経験を活かし、豊かな30年後の未来を拓く。

地域の魅力

- ・ 六会地区では、「緑や農地に囲まれた学園都市」
- ・ 片瀬地区では、「下町的な趣のある昔ながらの伝統が息づくまち」
- ・ 明治地区では、「自然環境と歴史、そして湘南C-Xの新たな都市空間とが融合するまち」
- ・ 御所見地区では、「地域農業と新しい産業が共存するまち」
- ・ 遠藤地区では、「里山に囲まれて、豊かな緑、清らかな川の流れ、自然の溢れるまちと文化が香るまち」
- ・ 長後地区では、「大山街道等の宿場町の歴史と文化が垣間見られるまち」
- ・ 辻堂地区では、「教育環境と湘南海岸文化が息づくまち」
- ・ 善行地区では、「山と谷が織りなす独特の地形と、それらが生み出す豊かな自然環境に恵まれたまち」
- ・ 湘南大庭地区では、「自然と人と緑が共存するライフタウン」
- ・ 湘南台地区では、「交通結節点と若者のまち、学園都市湘南台」
- ・ 鵠沼地区では、「湘南文化に育まれた、歴史と緑が共存するまち」
- ・ 藤沢地区では、「歴史と文化が息づき、湘南藤沢の都心部拠点」
- ・ 村岡地区では、「鎌倉市に隣接し、歴史と緑と文化を育み発展力を秘めたまち」

地域経営

- ・ 地域主体のまちづくりは、生活者の生活実感に密着し、地域の魅力や誇りを大切に継承し、かつ地域が抱えている特徴的な課題を、地域住民と共有し、解決するための知恵を絞り、地域発意をまちづくりにつなげていくための観点から地域経営が始まる。
- ・ 子どもからお年寄りまでの全世代がまちづくりに参加し、ひとり一人が役割と責任を担いながら、行政とのパートナーシップによって、地域完結型のまちづくりを進める。

定量的分析課題～将来予測に基づく課題

<領域設定と分類>

子育て

- ・ 少子化及び核家族化の進行により、地域における子育て支援の充実として、シニア世代による子育て支援、子育てコーディネーター等の人材育成が求められています。
- ・ 経済状況の変化により、働きながら子育ての出来る環境整備として保育需要が増加すると考えられます。
- ・ 地域密着型で次世代につなぐ子どもたちのためのまちづくりの推進が必要です。

教育

- ・ 小・中学校における児童・生徒数は将来的には減少に転じるため、学校再配置・学区の再編成が必要となります。
- ・ 藤沢の特色を活かすマリンスポーツと教育の連携、コミュニティスクールでの実践というような活動の切り口があると考えられます。
- ・ 藤沢の未来を担う青少年の豊かな心を育む教育が必要です。
- ・ 子ども同士のコミュニケーション不足などを補い、社会性を育む学校現場でのサポート体制の充実が望まれます。
- ・ 市内4大学が持つ教育力・研究力と活かした、教育環境や新たな産業を育む産学官連携を推進する必要があります。

安全・安心

- ・ 少子高齢化に伴い、災害時における要援護者の増加や地域における担い手不足を解消するため、地域とのより一層の連携強化及び情報共有などを図る必要があります。
- ・ 社会経済情勢の変化を踏まえ、消防行政の広域化（広域連携）を視野に入れた災害に強い消防・救急体制の構築が求められています。

- ・ 犯罪発生動向を踏まえ、防犯体制の構築・強化や犯罪被害者への支援方策の推進が求められています。

健康・福祉・医療

- ・ 高齢化社会の到来を踏まえ、保健所政令市として生涯にわたる健康づくりの推進に際し、市民と行政、関連機関が連携して、地域の健康増進拠点としてのより一層の強化が求められています。
- ・ 「いつでも安心して受けられる医療の充実」を実現するため、市民病院のあり方をはじめ、予防医療の充実、災害時の救急拠点病院の推進など、市町相互協力による広域救急システムの整備を図るとともに、単身世帯の増加及び高齢化による生産年齢人口の減少により医療・介護の分野において、従事者の確保が急務になります。
- ・ 医療機関の連携と急性期から在宅介護までの支援システムづくりが重要となります。
- ・ 高齢者などの引きこもり予防に対して、地域と行政、医療機関等が連携したケアシステムの仕組みづくりが必要となります。

環境

- ・ 市民、事業者、行政が連携して、「将来世代へのニーズを損なうことなく、現在の世代のニーズを満たすこと」を基本に、持続可能な低炭素社会づくりと循環型社会における廃棄物の適正な処理のあり方に取り組む必要があります。
- ・ 里山、田園、川という北部の自然、南部の緑と砂浜と海から形成される湘南海岸の自然環境、市内の三大谷戸・緑地とシンボル化した樹木などの自然景観資源との共生、藤沢らしい都市景観・自然景観を次世代に引き継いでいく取り組みが求められています。
- ・ 鵠沼地区を中心とした邸園文化が育む住環境や東海道宿場町の歴史的街並み、市内に点在する歴史的文化遺産を貴重な地域資源と捉え、守り育てていく必要があります。
- ・ 江の島と伊豆・箱根連山の眺望、里山から富士を眺める景観など、藤

沢の眺望景観力を次世代に伝えていく必要があります。

産業

- ・ 製造業を中心とする大規模生産工場の閉鎖・市外転出のリスクを補うため、産業構造の変化に対応した中小企業の経営革新、技術革新に対する支援及びICT等を活用した新しい産業のあり方を再構築する必要があります。
- ・ 今後生産年齢人口が減少し、不安定雇用の要素が増加する中、ワークライフバランス（仕事と生活の調和）の実現や多様な就労ニーズへの対応を図る必要があります。
- ・ 商業・農業・水産業においては、高齢化と後継者不足等を共通要因に、商業にあっては、年間商品販売額及び店舗数が減少する中、都心部及び地域における空洞化対策が急務であり、他方、農業・水産業においては、意欲ある担い手が参入しやすい制度・支援策の構築や地産地消推進への取組みが求められています。
- ・ 産業振興・地域活性化の観点から、「観光都市 湘南藤沢」の継続的発展を目指していく必要があります。
- ・ 交通ネットワーク整備により、人・物・情報の交流を活発化させ、経済への波及効果を増大させることが重要です。

都市基盤

- ・ 人口減少社会・超高齢社会に対応した、新しいコンパクトなまちづくりを進めるとともに、広域連携による公共交通体系と道路・交通ネットワークの確立を図る必要があります。
併せて、環境負荷の低減、バリアフリー化等、ユニバーサル社会に応じた道路づくりが求められています。
- ・ 都市基盤整備については、1960年以降建設された下水、道路及び橋りょう等の基盤施設や学校及び市民センター等の公共施設の老朽化、機能低下問題に対して、再整備には多額の財源を必要としますが、税収の減等を踏まえ、限られた財政資源の有効かつ適切な配分を講じる

ともに、施設管理状況の詳細把握・分析、延命化対策等、持続可能な都市づくりに向けた新しい公共の観点からのマネジメントの実行が急務です。

- ・ 限りある財源・資源を有効に活用する視点に立って、都市基盤、都市再生等のプロジェクトについては、「選択と集中」を図り、効果・効率的な施策への位置づけが必要となる。

芸術・文化

- ・ 生涯学習にあっては、社会教育関係団体、NPO・民間業者等と役割分担をしながら、連携を深め、「市民力」「地域の教育力」を発揮できる場づくりが求められています。
- ・ 市民の創造性を育み、表現力を高め、心豊かな地域社会を形成するための芸術文化活動の振興や地域の歴史・文化を継承し、発信する取組みが求められています。
- ・ 健康で豊かなスポーツライフを確立するために、子どもから高齢者までのすべての世代がスポーツを楽しみ、健康増進と維持、心身を健やかに保つスポーツ文化環境を市民ぐるみで進める必要があります。

共生と協働

- ・ 共に生きる社会を実現するために、人権・男女共同・多文化共生・平和や子どもから高齢者、障害者などの社会的弱者と共に生き、共に創る社会を創出していく必要があります。
- ・ 多文化共生を推進するとともに、既存広報メディアの価値の再評価が必要になり、情報受信者（市民）の意識の変化に対応した市の情報発信が求められています。
- ・ 新たな時代における仕事と生活の調和を実現し、家族と地域からの理解を求めながら、様々な働き方や生き方を認め合う「ワーク・ライフ・バランス」が求められています

地域主権と広域連携

- ・ 少子高齢化社会の中で、地域の特性に応じたまちづくりを進めるため、地域主権としての、「地域経営会議」を設置することにより、各々の地域のあり方や将来の方向を具体化していく必要があります。
- ・ 市民サービスの向上や地域活性化を目指し、新たな都市広域連携モデルの構築を確立する必要があります。

都市経営

- ・ 新しい公共の担い手は、行政、企業、NPO、一般市民など多様であるため、それぞれの資質、資源を、互いのパートナーシップを強化しつつ、機能が活かされる仕組みづくりが必要です。
- ・ 本格的な地方分権社会を迎え、基礎自治体としては、民間活力、市民力・地域力・広域力を最大限に活かした都市経営改革、徹底したマネジメントに基づく資産（土地・建物）の有効活用を図る必要があります。
- ・ これからの都市経営は、市民、NPO、企業などとともに、新しい公共サービスの提供を目指す必要があります。行政の外部に、より優れた経営資源があればそれを活用し、民間の活力により、従来の行政サービスを、より適切な仕組みや方法に転換させる経営マネジメントの視点が求められます。
- ・ 子育て・教育、介護、障害者自立支援、災害等の各分野において、行政の力だけでは、限界があることから、市民力、地域力の活用、地域における主体的な市民活動を支える公共施設（拠点施設整備）のあり方を検討する必要があります。

基本構想の「切り口」と「軸」の設定（STEP 3）

17領域毎に分類した「収束された素材」から、①藤沢の30年後の未来、藤沢の持つアイデンティティとオリジナリティなどから「切れ味」の良い、独創的な、基本構想の都市ビジョン、将来像などを描くための「切り口」を設定する。

17領域毎に分類した「収束された素材」から、本市が目指すべき将来像、まちづくりの理念を目標化、施策の柱立ての方向性につながる「共創力と実行力」を導き出す「軸」を設定する。

I 切れ味の良い独創的な「切り口」

～ 10年後に生まれた子が20歳になった時

子や孫やまだ見ぬ次世代へ藤沢の未来を贈る

1 30年後の藤沢の未来へのメッセージの視点

10年後に生まれた子が20歳になった時、私たちが享受している自然・歴史・文化・豊かな生活環境を、藤沢の未来へのメッセージとして伝え、贈る視点

2 現世代がまちの魅力を発見し、価値を高めて次世代へ伝える視点

藤沢の持つ包容力、心象風景と景観、多様性に富んだ歴史と文化などをまちづくりに織り込み、まちの価値を高め、次世代へ伝え、贈る視点

藤沢の「強み」を発展させ、「弱み」を克服する藤沢力

1 都市力を次世代に継承、発展させる視点

江の島、湘南のブランド力、教育充足都市の魅力、及び自然環境が息づく自然の資源など、時代を経ても大切にしなければならない都市の魅力を、磨きのかかった「価値」に高め、次世代に継承、発展させていく視点

2 藤沢の「弱み」を克服し、新たな魅力へと展開させていく視点

藤沢の知名度の不足や、藤沢のアイデンティティにおける理想と現実のギャップ、地域文化やコミュニティの共有化の低下や企業撤退等による新たな産業創出への不安など、今抱えている藤沢の「弱み」を克服し、新たな魅力へと展開させていく視点

市民活動により、地域が成長する「草の根経済力」を発掘する

1 市民の力が創り出す未来思想の視点

人口減少、高齢化社会、財政難等、成長から成熟社会への転換は、重苦しく暗く厳しさだけが露見するが、「成長に限界無し」という言葉があるように、成長は経済や財政の豊かさのみとは限らない。市民ひとり一人の人材力は「資源」であり、市民ひとり一人の活動力は「地域貢献」である。この地域力によって地域が成長し、地域コミュニティが再生することにより都市と地域の新たな経済力がより高められる視点

2 藤沢に住み、藤沢で生き活きと働き続ける環境づくりの視点

藤沢のまちは、農業・漁業・商業・工業・観光など、多面的な機能を持ち、これらがバランスよく調和された都市として発展してきた。経済のグローバル化や都市間競争などにより、経済成長のかげりが始まることに対して、市民ひとり一人がもつ人的財産を活用して、新たなコミュニティ・ビジネスや地産地消などを創出し、豊かなライフ・スタイルを生み出す視点

多様性と融合性が織りなす、きらめく資産を次世代へ継承する

1 混在性と相互認知の視点

北部と南部の固有の生活文化や、何世代にも渡って住み続けている人や湘南に憧れて住み始めた人、地域の良さをまだ知らない・地元のことを知らない人など、価値観、認識、属性が混在する中で、相互認知を図りながら、未来に向けたまちを形づくる視点

2 地域間の連携の視点

1 3地域毎の個性や特性を発揮しつつ、それぞれの地域への理解と尊敬を深めながら、地域間の連携により、魅力的な藤沢らしさを形づくる
地域間連携の視点

市民ひとり一人の発信力・行動力をまちづくりにつなげる

1 協働と連携によるまちづくりの視点

子どもや障害者、高齢者、社会的弱者に地域や社会から援助が必要な市民を、共助の視点から、協働と連携によって支え合う仕組みをつくり、次世代の市民にとっても住み続けたいまちとなるための視点

2 三層構造のプロセスをまちづくりの財産に変える視点

私たちが新総合計画の三層構造（市民力・地域力・職員力）の仕組みを通じて学んだまちづくりのプロセスの大切さを、新たに始動する市民主体のまちづくりへ発展させていく視点

画一性を排除し、地域の個性・文化を創造性あふれる地域力を導く

1 地域らしさを市民が誇りに感じる視点

1 3地区毎の個性や特徴が暮らしに輝きを与え、市民一人ひとりが「地域らしさ」の魅力、アイデンティティを共有できるまちづくりの視点

2 住む人・働く人・学ぶ人が、協働と連携によって地域を経営する視点

行政と地域が役割と責任を分担し、地域が、地域毎の創造と共創、持続性が織りなす独自の地域づくりを目指し、地域経営会議と地域住民がつくりあげる視点

藤沢らしい「生活スタイル」を育む

1 新たな湘南文化の創出を目指す視点

湘南の環境と文化、地域の資源を活かして新しい湘南の生活・就労スタイルや文化を育成する魅力的な都市環境と創造的な湘南文化を創出する視点

2 市民のクオリティ・オブ・ライフの向上の視点

地域生活の質を高め、一人ひとりの市民が夢や望みを持って、期待感が持続され、一生安心して暮らせるまちづくりを進めていく視点

3 湘南文化の発信と交流の視点

湘南文化のもつ魅力と価値を、国内外にひとり一人の市民や企業が発信し、多文化との交流を通じて、新たな湘南文化を育む視点

4 クリエイティブ・シティの視点

まちは、就業の場、居住の場、消費の場としての機能が中心となっていますが、そこに文化・芸術や娯楽、スポーツ文化などを加え、それらが渾然一体となって、まちの魅力が生まれ、人を惹きつけるクリエイティブ・シティを創造する視点

Ⅱ 創造力と実行力を導き出す「軸」

～ 30年後・20年後・10年後に解決しなければならない課題に布石を打つ

共に生き、共に創る社会を創出する

1 自助・共助・公助で支えあう視点

すべての市民が、豊かな地域社会を享受するため、自助・共助・公助の組み合わせにより、これからの地域活動を推進する視点

2 共に生きる視点

共に生きる社会を実現するため、人権、文化、男女共同、多文化共生を進めつつ、高齢者、障害者などの社会的弱者と共に生き、共に創る視点

経済成長にかわる「新しい価値」を創造する

1 湘南の未来へ「安心、元気、活力」を生み出す視点

戦後の自治体は、ひたすら経済成長を前提に都市づくりを進めてきましたが、少子化による人口減少、経済成長の減速、急激な高齢化時代の

到来、都市間競争と国際的な経済競争など、新たな社会潮流の変化に対応しながら、持続可能な都市を目指す「経済成長に代わる価値」として、湘南の未来へ、「安心・元気（活力）・魅力」の創造を目指す視点

2 新しい産業を創出する視点

農水産業、工業、商業、観光等の構造的課題や経済の長期低迷の中で、雇用や財政基盤、都市間競争力を高めていくために地域の新たな産業活力を生み出すために、地域の大学が持つ学術、教育、技術等の資源を活用して、関係者と連携、協働により、新しい産業を創出していく視点

協働型の新しい都市経営システムを構築する

1 行政と市民・民間によるパートナーシップの視点

市民・NPO・民間等の知恵と力を借りながら、行政と民間とのパートナーシップを強化し、それぞれが持つ資源やノウハウを活用して新しい公共を形づくる視点

2 マニフェストと総合計画の連携の視点

マニフェスト事業を確実に実施し、総合計画との一体化を図るため、これらの視点に、総合的横断的な観点を加え、事業効果の一層の向上を図る視点

3 新総合計画と連携した財政計画の視点

- ・ 限られた予算を効率的・効果的に活用するために、新総合計画に基づく財政計画に、13 地区別実施計画と地域経営会議に係わる予算手続き及び新総合計画と財政計画を連動させた財政計画の視点
- ・ 就労人口、就労率の減少、経済成長の終焉に伴い、財政状況が逡減することを踏まえ、限られた財政資源を有効かつ適正に執行する視点

市民と創る「小さな政府」（地域主権と広域都市連携）

1 地域主権

市民力、地域力の発揮される、地域でできることは地域の自主自立に基づき、実施される地域完結型まちづくりの視点

2 市民主体のまちづくり

地域経営会議を中心にして、市民力、地域力を発揮し、地域の文化・歴史・資源を活かして、地域毎に個性とうるおいのあるまちづくりを推進するため、地域への予算、権限の委譲と行政事務の簡素効率化を推進する視点

3 広域連携の視点

地方分権等の動向を踏まえ、広域的視点にたつて、行政サービスのスケールメリットを活用するため、サービスの共同利用、共通課題及び、広域交通ネットワーク等、広域的処理事項の共同実施を推進する視点

4 市民本位の行政改革の視点

顧客主義を確立し顧客満足度の向上を図るためには、アウトプットではなくアウトカムを重視した成果主義を前提に、市民力、民業等との相関と市場メカニズムの活用を図る視点

5 地域主権と本庁業務のあり方に関する視点

地域経営会議による、地域主体のまちづくりを進めるための予算と権限の委譲に伴い、市民サービスの向上と効率化の視点に立った、市民センター等出先機関への業務移管、定員、組織等に関する本庁業務執行体制との関係性からの新しい行政システム構築に向けた関係性の視点

未来に引き継ぐ環境と公共財産

1 持続可能な都市づくりの視点

湘南の豊かな自然・環境・文化と社会資本を次世代に継承させていくためには、「将来世代へのニーズを損なうことなく、現在のニーズを満たすこと」を基本に、地球規模の視点に立って地域で取り組むべき資源・食糧・環境などの問題について総合的な視点に立って持続可能なまちをつくる視点

2 社会資本の維持管理の視点

公共施設、道路、下水道設備等の社会資本に対し、将来負担を考慮し、新たな維持管理手法等によるマネジメントを推進する視点

一生安全で安心して暮らせるまちづくり

- 1 子どもから高齢者まで一生安心して暮らせるまちづくりの視点
市民が安心して子どもを産み、育てられる生活環境、生涯健康に暮らせる生活環境と保健医療の充実を図り、みんなで支える地域福祉の充実によって、スポーツなどを楽しみながら生涯元気で安心して暮らせるまちづくりの視点
- 2 災害に強く、安全で安心なまちづくりの視点
犯罪や災害への不安を解消し、地域の連携とセーフティネットの整備によって、安全で安心できる生活環境をつくりあげる視点

次世代の「藤沢っ子」を育む環境づくり

- 1 将来の藤沢を担う夢あふれる元気な「藤沢っ子」を育てる視点
家庭と地域が一体となって、藤沢の次世代を担う子どもたちを育て、将来の藤沢を支える知恵と夢をもった、元気な「藤沢っ子」育む生活環境をつくりあげる視点
- 2 高い教育環境を持続・発展させる視点
藤沢の持つ教育環境・人材は、都市力のひとつであり、この大切な教育環境を持続・発展性を持たせることにより、「若い力」を育み、次世代の藤沢を担う潜在能力を高めていく視点

透明でクリーンな市民との情報共有

- 1 協働まちづくりを進める前提となる情報の共有の視点
市の保有するすべての情報を、市民との共有化を原則に、より身近な場所での公開と提供を積極的に進めることにより、市民との協働まちづくりの前提となる情報共有を進める視点
- 2 クリーンな市政と信頼される市政の視点
市は、行政の事務執行にあたり、経済性、効率性、有効性の視点から適切に執行していくために、インターナル・コントロール改革（内部統制）や透明かつ公平で、誠実な事務執行を行うためのコンプライアンス改革（法令の遵守）を進める視点